

イスラエル大使館へ 抗議の声を集中しよう

昨年12月27日に始まったイスラエルのガザ地区攻撃は、空爆に続き、1月3日から地上軍を侵攻させ、地上戦が激化し、「地区内に安全な場所はない」（国連スタッフ）事態に。死者は700人近くになり、4分の1が子どもであると報道されています。しかもガザ地区は、イスラエルによる長期にわたる閉鎖で、食料・電気・水道・

医薬品なども極度に不足する劣悪な環境におかれています。イスラエルの地上攻撃で、パレスチナ市民の犠牲が増大する中、国際社会では、イスラエルに即時停戦を求める声が強まっています。しかしイスラエルは、これを拒否。アメリカの黙認を受け、ガザでの攻撃を続行しています。

私たちは、国際法にも、人道にも反するイスラエルの軍事行動に怒りを込めて厳しく批判し、軍事行動を即刻やめ、即時停戦を強く求めます。

ガザ攻撃を即刻停止せよ

イスラエルの軍事行動に批判の声高まる



イスラエル大使館前で抗議する人々（東京都千代田区）

イスラエル大使館

（例文）イスラエルは、ただちにガザへの
軍事攻撃を中止せよ

〒102-0084

千代田区二番町3

駐日イスラエル大使館・総領事館

イスラエル国大使館 特命全権大使

ニッシム・ベン＝シトリット 殿

FAX: 03-3264-0792

ソマリア沖海賊口実に

海上自衛隊派兵へ新法案



今、自衛隊の海外派兵への新たな危険な動きが強まっています。自民・公明両党は、海賊対策を口実にソマリア沖へ海上自衛隊を派兵させる新法案を今国会に提出しようとしています。

また、新法までのつなぎとして自衛隊法82条が規定する海上警備行動で対応することを明らかにしました。

新法制定まで含めた、ソマリア沖への海上自衛隊派兵の動きは、インド洋への派兵に続き、何が

何でも憲法違反の自衛隊の海外派兵をおし進めようという危険なものです。

そもそも、海賊問題の解決に軍事力で対処が有効でしょうか。ソマリアでは、20年以上内戦が続く、沿岸漁民が海賊に転じていると報道されています。ソマリア情勢の根本的解決をする国際協力をしないまま自衛隊派兵に固執するのは、問題解決につながらず、真の国際貢献とはいえません。

